

# 広島芸術学会活動報告

二〇一〇年七月一日～二〇一一年六月三十日

米 門 公 子

## ▼平成二十二年七月一日(木)

会報第百八号を発行。第二十四回総会・大会のスケジュール、エラヒ モハメド トウフィック(広島大学大学院総合科学研究科)、高間由香里(同大学大学院文学研究科)、深谷訓子(尾道大学学術文化学部)の研究発表要旨、シンポジウムで基調講演を行う部谷京子(映画美術監督)、パネリストの袁葉(広島大学)、蔵本順子(サロンシネマ・シネツイン)、水島裕雅(広島大学名誉教授)の発表要旨とプロフィールを掲載。最終ページに、事務局からの「『藝術研究』バックナンバーの登録許可」に関する依頼を載せた。

## ▼平成二十二年七月二十四日(土)

第二十四回総会・大会を広島県立美術館で開催。総会で、今回初めての選挙および推薦で選ばれた新委員が発表された。水島裕雅が議長に選ばれ、各担当委員が平成二十二年事業報告(青木孝夫)、決算報告(大橋啓一)、監査報告(原田佳子)、続いて二十三年事業計画(青木孝夫)、予算案(大橋啓一)を発表し、承認された。

大会の部では、①エラヒ モハメド トウフィックの「アジア映画におけるネオリアリズムを理解することについて―黒澤の『生き

る』IKIRU』とサタジットの Pather Panchali を例として―」②高間由香里の「善導大師像について―知恩寺本画像を中心として―」③深谷訓子の「ヤン・ファン・スコレル作《エルサレム巡礼者たちの肖像画》考察」の研究発表が行われた。シンポジウム「ひろしまを描く―映像とことば」に先立ち、部谷京子が基調講演「映画で描く人、街、営み」を行った。その後、パネリストに部谷が加わり、それぞれの立場で話した。司会は井野口慧子。参加者は四十五名。終了後に懇親会を開催。

## ▼平成二十二年九月十日(金)

会報第百九号を発行。巻頭言は金田督の「感動の共有から始めよう―会長に就任して―」。続いて大会における総会のまとめと新委員の名前を掲載。研究発表②を菅村亨、③を大井健地、シンポジウムを袁葉と柿木伸之が報告。最終ページに次回例会案内を掲載した。

## ▼平成二十二年九月二十五日(土)

第九十二回例会は「秋の下蒲刈島で文化を語ろう」と題した野外例会。朝鮮通信使資料館、三之瀬御本陣芸術文化館、蘭島閣美術館

など島にある施設を見学したほか、海に面した美しい庭園のある松濤園蒲刈島御番所（復元）の大座敷で、広島県総務局・海の道プロジェクトチームの渡辺香織主任を囲んで「文化による島おこし、地域おこしはできるか」をテーマに、全員でリレー討論を行った。参加者は十一名。

▼平成二十二年十二月二十六日（日）

会報第百十号を発行。巻頭言は谷藤史彦の「『対話型』の美術鑑賞」。青木孝夫が、金田晋の「平成二十二年度地域文化功労者文部科学大臣表彰」受賞を報告。続いて未掲載だった大会の研究発表①の報告を青木孝夫が書いた。高原小夜が第九十二回例会の報告を行い、袁葉がエッセイを寄せた。最終ページに次回例会案内を掲載した。

▼平成二十三年一月十八日（火）

第九十三回例会は正月例会。「春を寿ぐ」をテーマに懷石料理「豆匠」で開いた。金田晋が「暦」について話した後、参加者全員が一分の持ち時間で自らの正月経験を語った。参加者は十八名。

▼平成二十三年一月二十九日（土）

会報第百十一号を発行。巻頭言は三木島彦の「古典の肖像画について」。第九十一回例会報告を米門公子が、第九十三回を金田晋が書いた。柿木伸之が広島市立大学国際学部公開講演会の案内を寄せた。次回例会案内とともに、研究発表と特別講演の要旨を掲載した。

▼平成二十三年二月十九日（土）

第九十四回例会をひろしま美術研究所で開催。研究発表は①中岡志保（広島大学大学院博士課程）の「伝統芸能の再評価と花柳界の

芸能の現状」②高橋哲也（ふくやま書道美術館）の「藤原佐理筆書状『頭弁帖』について」③皮俊瑠（天津外国語大学日本語学院）の「美への追究―岡崎義恵の『日本文芸学』をめぐる」。転居のため、広島を離れることになった水島裕雅が「私と広島／ヒロシマ」と題して特別講演を行った。参加者は二十八名。例会後、懇親会を開催。

▼平成二十三年三月二十四日（木）

当学会の有志が、金田晋の「平成二十二年度地域文化功労者文部科学大臣表彰」受賞を祝う会」をホテルセンチュリー21広島で開いた。出席者は当学会の内外から百名。

▼平成二十三年五月六日（金）

会報第百十二号を発行。巻頭言は山下寿水（ふくやま美術館）の「タスマニアの性と死と生」。第九十四回例会の研究発表①を馬場有里子、②を谷藤史彦、③を皮俊瑠、特別講演を嶋屋節子が報告した。袁葉がエッセイを寄稿。事務局から、芸術展示「制作と思考」第八回展のテーマを募集。最終ページに次回例会案内を掲載した。

▼平成二十三年五月二十九日（日）

第九十五回例会は野外例会。「井原線沿線の歴史と文化を訪ねる旅」をテーマに井原市・華鶴大塚美術館、神辺町・造り酒屋「天寶一」、廉塾・管茶山旧宅、管茶山記念館、ふくやま美術館でさまざまな美術作品を見学した。プラン作成および案内役は谷藤史彦および倉橋清方が務めた。参加者は十一名。

《平成二十三年六月三十日現在、法人会員二法人、個人会員二百四名（特別会員二名、一般会員百七十六名、学生会員二十六名）》

（こめかど・きみこ） 広島芸術学会事務局